

第1回羽田発着枠配分基準検討小委員会 議事概要

日時：平成24年7月27日(金)18時～20時

場所：3号館11階特別会議室

主なご意見：

<より広い政策的視点>

- ・アジアの、世界の中の羽田という観点ももつべき。
- ・羽田発着枠は国民の大事な財産。
- ・ネットワーク、競争、地域、環境、安全など多様な観点から公正に検討を行う必要。
- ・大規模災害のバックアップ機能など、平時・有事の航空ネットワークを考える必要。

<市場メカニズム等政策的配分>

- ・オークションについては、外国でも事例がなく、慎重に判断する必要。
- ・効率性の観点でオークションは優れた手法の一つ。そのようなメカニズムを使いつつも、地方への配慮を含めたものが出来ないかと考えている。
- ・オークションの目的である効率性の観点はすでに現行の評価項目に入っている。
- ・地方自治体による政策枠への申し込みに市場メカニズムを組み合わせる、という発想もありうるのでは。
- ・オークションは難しいと考えている。スロットは時間帯により価値が全く異なる。発着枠は誰のものか、という議論もある。
- ・今までも時間帯別配分はしておらず、同様に考えるとオークションにおいても発着枠単位で考えることが妥当。

<ネットワークのあり方>

- ・地域活性化に資する配分をすべきであり、ローカル to ローカルの維持についても考えていかなければならない。
- ・観光の観点からも羽田のネットワークを考える必要。
- ・ローカル to ローカルの路線減少をくい止める必要がある、この前提で航空会社のネットワークをいかに評価し、路線を維持できるか考える必要。
- ・地方路線については、元々、地方空港を作りすぎたという問題意識もある。
- ・将来的に「多様な輸送網の形成」をどこまで維持する必要があるのか、議論が必要ではないか。
- ・羽田の発着枠は国民の貴重な財産。今後は定住人口が減少し、交流人口で活性

化するしかない。羽田ネットワークは交流の視点から重要性が増加。

- ・地方路線維持については補助だけでなく、地域の積極的な取組を応援すべき。
- ・国際戦略総合特区等との関連でも物流・人流の促進が必要。

<産業政策・競争促進>

- ・羽田だけでなく、成田空港やLCCの参入状況も意識して議論すべき。
- ・JALの経営再建問題をどう考えていくかは避けられないのではないか。
- ・新規航空会社が小規模事業者と混同されており、定義を明確化する必要。
- ・航空は国際競争にさらされており、国際競争力を持つナショナルフラッグをしっかりと確保する必要。
- ・エアラインにとって将来の経営上の指針となる配分基準をしっかりと定め、次の発着枠配分評価のときにもそれを適用すべき。

<安全の評価>

- ・安全面等でしっかりと事業者が評価される評価項目を検討する必要。ルールに従って航空会社が運航出来るような、透明性が高く精緻なルールにしたい。

以上